

琉球大学学術リポジトリ

家政学は生活の美学である－美しく生きるということ－

メタデータ	言語: 出版者: 家政教育社 公開日: 2007-10-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 富士栄, 登美子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2226

家政学は生活の美学である

—美しく生きるということ—

富士栄登美子

(琉球大学教授)

一、はじめに

家庭科がとらえる視点は、「生活の美」であると考えています。家庭科が対象とする生活事象、生活文化のその底にあるものは、生活の美学であると考えます。

美しいものを求める要求は、人間が生まれながらにして持っている美的要求です。美しく装うということ、美しく食べるということ、美しく住まうということ、そして、美しく老いるということとは、すなわち美しく生きるとのことだと思えます。

ここでは具体的に、美しく住まうということについて述べさせていただきます。

家政学では「何を」、家庭科教育では「どのように伝える

か」を研究します。家庭科教育で言う「感性」とは、「生活のセンス」を指します。

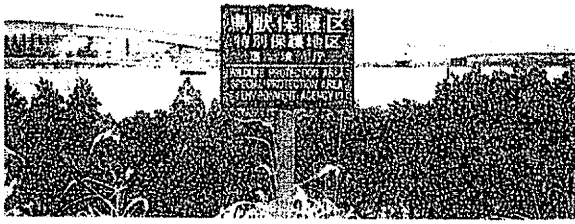
二、家庭科教育と環境教育

私たちは、あらゆる情報がたやすく手に入るようになり、体験の中から理解するという大事な一面が忘れられようとしています。

生活体験、自然体験、社会体験を重視する形で総合的な学習の時間が生まれました。総合的な学習の時間から家庭科への授業（総合・家庭）を実践するために、その材料となるものを使って、どのように伝えれば児童生徒たちの環境マインドを育てることができるのかを研究しています。

一九九九年五月にラムサール条約に登録された「澁湖」は、

写真 1



沖繩の水辺と自然を学ぶ上で、環境教育に最適な場所であると言えます。環境という概念は、そこに環境を意識する人がいて初めて成り立ちます。環境教育とは、環境を感知することのできる人、環境に責任の持てる人を育てることだと思えます。毎朝、漫湖の横を通って仕事場へ通う人は、漫湖の変化に気付いています。

三、ラムサール条約とは

湿地の保全を目的としています。正式名は、「とくに水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。

九七年イランのラムサル (Ramsar) にて採択されたのでその名があります。ラムサール条約第七回締約国会議 (COP7) は、一九九九年五月に中米のコスタリカのサンホセで開催され、沖繩県の漫湖が登録されました。「潮間帯湿地の保全と賢明な利用 (Wise Use)」の促進に関する決議」が採択されました。漫湖が条約に登録されるためには、

国内法による鳥獣保護区特別保護地区に指定され、市町村の合意が前提となります。

潮間帯湿地とは主に干潟を指し、そのほかマングローブや藻場などを含むとあります。漫湖は、干潟とマングローブを併せ持つ湿地帯で都市地区に隣接しているという特徴を持っています。

四、那覇市立若狭小学校での「子供環境サミット」

那覇市立若狭小学校第六学年三クラス合同に、総合的な学習の時間で「漫湖の自然と環境」を学び、一九九九年十二月に「子供環境サミット」を開き、「子供環境宣言」を採択しました。單元名は、「めざせ！環境キッズ」です。

- (1) まず初めに、上田由加利先生が「始めます」と口火を切るだけ、後はすべて子供たちが授業を作っていきます。
- (2) 導入として漫湖に関するクイズの後、四つのグループの発表です。①漫湖の生き物、②漫湖の植物、③漫湖の浄化作用、④漫湖のゴミ。
- (3) 二十年後の漫湖はどうなっているだろうか、ワークショップ形式でのディベート授業です。
- (4) 子供環境宣言を作ります。出て来た意見を記録係がパソコンを使ってどんどんタイプしていきます。それがプロジェクトを通してスクリーンに写し出されます。そして、採択されました。

(5) 最後に、川満トミ子先生から「環境キッズになれたかな」「イエー!」。四十五分間のチャイムと同時に終わった見事な授業でした。この授業の後、子供たちがホームページを作って、地域の人たちや流域の各学校へ発信します。

そこから、更に水を通して生活の在り方を考える家庭科教育へと深めます。

五、生活排水の出し方

漫湖に流れ込む国場川、饒波川わはの汚染要因の四割が生活排水です。過剰な有機物が漫湖に流れ込みます。那覇市は、一九九六年度から合併浄化槽の助成制度を敷いています。家庭からの排水の出し方を考えてみたいと思います。

かつて、潮干狩りで取ってきた貝を流して洗っていました。貝に混ってサワガニがいました。サワガニのいる流しに石けんを使うことはできませんでした。私たちは、見えないと平気でやってしまいます。川につながっていることを思えば、石けんや洗剤は使えないはずで。

皿など油で汚れた食器でも、紙やゴムベラで拭いてから洗えば洗剤はいりません。パックテストで汚染度を調べました。全く違います。若狭小六年生（七七名回収）に家の人のやるのを見て、あなたが答えてくださいとアンケートをお願いしました。

紙で拭いていた人は二三%でした。しかし、その大多数は、

紙で拭いてから洗剤を使っています。台所用の洗剤の容器には、水一リットルに対して〇・七五ミリリットルと書かれています。しかし、洗い桶に洗剤を薄めて使っている人は八%にすぎません。九一%の人は、スポンジに直接かけて濃い濃度で使用しています。メーカーは、汚れた汚れをいかに落とすかを考えますが、私たち生活者は、いかに汚れないように使うかを考えます。家庭科では、汚れの落とし方を教える前に汚さない使い方を教えます。また、洗濯の際、洗剤を計量して使っている人は九二%でした。

六、水のリサイクル（循環）

沖縄県は、大きな河川や山が少なく、琉球石灰岩で覆われています。地形的条件から豊富な降雨量を保持するのに弱く、依然として潜在的に渇水の危機を持ち合わせています。

首里の家並みを歩きますと、庭先に「庭への散水は井戸水を使っています」と書かれた木札がぶら下がっていました。島の人々にとって水が、いかに大切なものをよく物語っています。

前述のアンケートで、水がなくてご苦労なさった経験を書いてもらいました。四四%の人が水不足を経験しています。屋根の上にタンクが載っている家をよく見掛けます。いつ断水になってもいいように備えているのです。全体の六五%の家で、貯水タンクを使っています。

二〇一〇年までに、水資源の面で大きな改善がなければ、世界の多くの国で水不足が深刻化し、紛争や戦争を誘発しかねない、と国連は警告しています。

沖繩本島では、「北水南送」といって、北の森を壊してダムを造り、そのダムのお陰で、南の人間も北から送られてくる水を使っています。しかし、水も自分で確保するための努力をなさっている方がいらっしゃいます。雨水（天水）を利用した家を自ら設計され、一九九四年から入居なさっている横山さんのお宅にお邪魔しました。

屋根全体で雨水を受け止めたいと平屋にして、屋根は平らです。広さは、一二〇平方メートルです。屋根から樋（とい）を伝って、砂利・木炭・砂からなる濾過層を通して水槽へ。タンクからモーターで蛇口へ送ります。台所には、二つの蛇口がありました。一つは水道、もう一つは雨水が出て来る蛇口です。トイレ、洗面、風呂、洗濯用水はすべて雨水で賄います。台所での水道は、調理・炊飯・飲み水に使い、洗い物は雨水の蛇口をひねります。

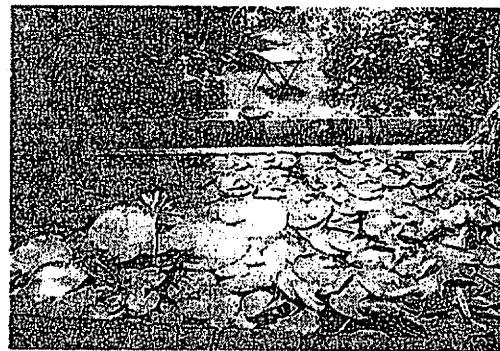
ご一家は、ご夫婦と、長男七歳、長女四歳の四人家族です。家の水槽を満タンにしたとき、二十四日間ほど充足されるそうです。雨水を利用しようと思われたのは、「川をきれいにする活動に関わっていて、水に関心がありました。住宅を造るときは、雨水利用と決めていました」からです。また、お

宅には、合併浄化槽もありました。

最後に横山さんの声で締めくくりたいと思います。

『最近の水質検査では、流入時点でBOD23ppmのものが、浄化されて3.66ppmになっている。水道水の原水として利用できるのが、

写真 2



3ppm以下ということを考えればなかなかの浄化能力である。この再生水（中水）は、散水用やトイレの洗浄水にも十分利用できる。東風平の家では池の水源として利用している。この池には、魚が泳ぎ、熱帯スイレンと菖蒲が花を咲かせている。太陽と空気に思いきり触れた池の水は、さらに浄化されて、東風平の畑の中の側溝へ、そして河川に流れ込んでいく。次に蒸発して雲となり、雨になってまた東風平の家の屋根に戻ってくる。こういった水の循環を生活のなかで、実現していく。』（横山芳春『住宅建築』六八頁、建築資料研究社、一九九七年八月より）。